

明日の県立図書館を思う

佐藤ゆかりさん(三重県立図書館協議会公募委員(H22まで)、三重の女性史研究会所属)

三重県立図書館協議会について

三重県男女共同参画審議会の委員をしていたが、そちらは部会にも分かれて、それらも含めると、任期の2年間で10回以上の会議が行われる。それに比べると図書館協議会は年1回ではもったいないと感じた。協議会の2時間は会議に充てられたが、書庫の案内など現場の視察もあるとよかった。

三重県立図書館への評価

女性史の調査で県内外の図書館を巡っている。調べもののサポートは、他の図書館に比べて、県立のサポートには満足している。

児童コーナーは市町の図書館に任せればよいという意見もあるが、県立図書館にも児童コーナーは必要である。特に三重県立図書館の場合、総合文化センターの一角にあるということが重要だ。複合施設にあるということは、子連れ客も多く来るとのこと。トイレも子連れで入れるようになっているし、大人用と子ども用とでコーナーが分かれているのもいいところだ。ただ「児童書コーナー」という言葉に、子どもはぴんとくるのだろうか。「こどものほんのへや」など表現を一考してほしい。

津市図書館

今年から津市の図書館協議会公募委員になった。地理的事情もあり美杉図書室の利用率が低いという。またレファレンスが重点目標の一つになっている。遠隔サービス、レファレンス研修、評価方法など、市町の図書館と県立図書館との連携がうまく図れればと思う。

三重県立図書館への要望(データベース)

女性史研究をしている関係上、「聞蔵」を入れてほしい。また伊勢新聞のデータベース化。長野県では信濃毎日をデータ化していて、便利だった。新聞社の領域か図書館の領域か不確かだが、利用者としてはあれば大変ありがたい。データベース用のプリンタの調子が時々悪いのが残念だ。

三重県立図書館への要望(レファレンスサービス)

夏休みということもあろうが、カウンターの人が少なく、利用者は尋ねることに躊躇するのではないか。よくレファレンスサービスを利用している自分の姿を見て、一緒に来た息子は「お母さんは図書館の人をこき使っている」と言う。そうではなくて「尋ねていいんだ」「尋ねることは図書館の上手な利用法の一つなんだ」と多くの利用者を感じてもらえる雰囲気づくりが必要だ。

三重県立図書館への要望(地域資料)

地域資料の電子化を検討してほしい。利用する人が限られるが、地域資料の電子化は今のところ図書館以外にすることがないのでは。

地域資料コーナーの本に複本があるなら貸し出してほしい。県立の役割に「保存」があるから仕方がない面もあるが。

明日の県立図書館を思う

佐藤ゆかりさん(三重県立図書館協議会公募委員(H22まで)、三重の女性史研究会所属)

三重県立図書館への要望等(その他)

県立でも障がい者向けサービス、遠隔者向けサービスを行うべきだ。始めるにあたっては周知活動や、評価指標の準備も必要である。最寄りの久居ふるさと文学館は対面朗読室を設けている。

各地の図書館で職員の非正規化が進むが、専門職としての司書に、賃金保障、身分保障、活躍の機会を与えること。本は財産であるので、きちりと公で管理してほしい。

図書館が開催する講座・講演会の集客力がうらやましい。各施設との連携(展示など)もいいことだ。

『みえの本』で『三重の女性史』の紹介をしていただいたが、新聞からそのまま引用したものであったのが残念だった。本を扱うプロである司書の方の生の声が、『みえの本』の記事に反映されるとよい。

最近飲み物は条件付きで可の図書館も出てきたが、飲み物は引き続き禁止でいい。図書館を大切に扱うためには必要だと思う。

閲覧用の机席が少ない。

書籍の電子化は図書館の危機ではなくプラスにとらえて、新しい図書館づくりに進んでほしい。